

項目	内容
名称	ラベンダー、スパイクラベンダー、フランスラベンダー [英]Common lavender、English lavender、True lavender、broad-leaved lavender、spike lavender、French lavender、Spanish lavender [学名]Lavandula officinalis、Lavandula angustifolia Mill. (=L.angustifolia, L. vera DC.)、Lavandula latifolia Medik、Lavandula stoechas L.
概要	<p>ラベンダーは常緑の低木で、地中海沿岸、中東、インドに分布しているシソ科の植物であり、交配種や栽培変種が多種存在する。芳香性のハーブで、花、精油、抽出物が食用 (Lavandula angustifolia Mill.) または香料として香水、化粧品、ポプリなどに用いられてきた。</p>  <p>写真提供: 東京都健康安全研究センター</p>
法規・制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食薬区分 <ul style="list-style-type: none"> ・花：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）」に該当する。 ■ 食品添加物 <ul style="list-style-type: none"> ・既存添加物 <ul style="list-style-type: none"> 香辛料抽出物 (スパイス抽出物/香辛料/スパイス)：苦味料等 ・天然香料基原物質リスト <ul style="list-style-type: none"> ラベンダーが収載されている。

成分の特性・品質		
主な成分・性質	・精油成分は1.5%以下でリナロール (linalool) 、リナリルアセテート (linalylacetate) 、ラベンジュリルアセテート、テルピネノール、シネオール (cineol) 、カンファー (camphor) 、ボルネオール (borneol) 、ピネン (pinene) 、リモネン、ペリリルアルコール (perillyl alcohol) を含む。その他、タンニン、クマリン類 (クマリン、ウンベリフェロン (umbelliferone) など) 、フラボノイド、トリテルペノイドが含まれる (23) (29) 。	
分析法	-	
有効性		
循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。	
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。	
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。	
ヒトでの評価	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
	その他	調べた文献の中に見当たらない。
	参考文献	(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳 (23) 天然食品・薬品・香粧品の事典 朝倉書店 小林彰夫ら 監訳 (30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について) (58) The Complete German Commission E Monographs (2001189601) <i>Derma.</i> 2001;(46):29-32. (PMID:14522434) J Ethnopharmacol. 2003 Nov;89(1):67-71. (1996071783) <i>Environ Dermatol.</i> 1995;2(4):291-4. (29) 牧野和漢薬草大図鑑 北隆館 (91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS). (102) The Essential Guide to Herbal Safety. Elsevier 2005. (PMID:8766746) Allergol Immunopathol (Madr). 1996 May-Jun;24(3):132-4. (PMID:22760025) Keio J Med. 2012;61(2):66-8. (PMID:26646574) Pediatr Dermatol. 2016 Mar;33(2):e125-6. (20) ハーブ大百科 誠文堂新光社 デニ・バウン (34) 有用植物和・英・学名便覧 北海道大学図書刊行会 由田宏一

(101) 健康・機能性食品の基原植物事典 中央法規
(2016356181) 日本皮膚科学会雑誌. 2016;126(8):1469.
